

第2回コンクリート生産性向上検討協議会 議事要旨

1. 開催日時：平成28年3月31日（木）13:00～14:30

2. 場所：中央合同庁舎3号館 4階特別会議室

3. 議事

- (1) 第4回 i-Construction 委員会（3/28）の概要について
- (2) コンクリート生産性向上を進めるための取組方針について
- (3) 要素技術の検討体制について
- (4) 品質規定の見直し（検査のあり方）について
- (5) 全体最適のあり方について
- (6) 生産性向上の事例について（羽田D滑走路の事例）
- (7) 今後の予定について

4. 概要

- i-Construction の報告書案では、「調査・設計から維持管理、更新までのプロセス全体の最適化を図る」としているが、本協議会では設計から施工までを検討対象としている印象を受ける。検討の範囲を連動させた方が良いのではないか
- どの要素が生産性向上に効き、どの対策を重点的に検討すべきか最初に戦略を立てることが重要。各要素技術の生産性向上効果については、最初に確認しておく必要がある
- コンクリート工の生産性向上のため、ガイドラインを作成し、各要素技術の活用を拡大していくことも重要であるが、実際のフィールドで効果検証していくことも重要。その際、トップランナーの実力をさらに引き出すために、コンペのような発注も検討していただくことが良いと考える
- 生産性向上効果については、工種毎に事例を見て評価するのが良いのではないか
- これまで国交省等が進めてきた低炭素等の取組も含めて、全体最適について検討すべきではないか
- 大型構造物のプレキャストだけでなく、現状場所打ちで普及している大型ではない構造物の標準化、プレキャストについても、検討対象とすべきでないか
- 品質確保に関する好事例や失敗事例を整理し、使える事例が無いか検討していただきたい
- 工場製作の製品の品質は、工場毎にばらつきがある。検査方法の検討にあたっては、工場製作ということで一括りにしてしまわず、現状もきちんと整理する必要がある
- 生産性の高い技術を採用するためには、従来考慮できていなかったコスト以外の項目を評価する必要がある